

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	少数でも続けよう「おてんま」事業
事業主体 (連絡先)	生坂村
事業区分	①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,879,200 円 (うち支援金: 1,252,000 円)

事業内容

少ない集落人数で「おてんま」作業を実施するため、村が小型の機械(ミニショベル)を整備し、地区に貸付け等をする仕組みをつくった。

・協働作業の実施(11月19日(日))

草尾区の上野地区では道路脇の側溝の泥上げ作業を住民たちが巾狭の無爪バケットを装着したミニショベルを活用して実施し、普段は1日かかる堆積していた土砂の排土作業を半日で終了することができた。

この事業については、村の広報誌や区長会議等で機械整備や貸付できる旨等の周知を行い、全地区に機械の活用を促した。



【側溝の泥上げ作業の様】

【目標・ねらい】

- ①機械による協働作業の省力化
- ②おてんまの継続実施
- ③集落内の繋がり、愛着の維持
- ④農地保全

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

高齢化や人口減少により従来行われてきた「おてんま」作業や耕作放棄地の解消に今回整備した機械(ミニショベル)の力を使うことで少人数でもできることになった。

また、地域の皆さんが協働で作業ができることで集落内の繋がりや地区の愛着を維持することができ、継続的な協働作業の一助となった。

※自己評価【A】

【理由】

小型の機械(ミニショベル)を整備し、地区に貸付け等をする仕組みにより、地域協働の推進や地区の活性化が図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「おてんま」は秋に比べ春行う地区が多いので、さらに機械整備の啓発を進め、4月以降に実施する地区への活用のほか、冬場には、この機械を利用して幅員の狭い生活道路の除雪等にも活用が期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある